

卓 話

平成15年11月18日

ニューヨークの今

森 益男 会員

本日は、私の卓話担当ということですから、先日行ってきましたニューヨーク旅行のお話をさせていただきます。

そもそも今回の旅行は、岐阜県の主催した「オリベ・イン・ニューヨーク」に協賛する形で企画されたものでした。私が青年会議所の謡曲同好会「みなもと会」に関わっておりますことはかねがね申しておりますが、たまたま昨年の夏の謡曲会



に県の副知事が同好の士としてゲスト出演をされました。そして、その夜の懇親会の席で、岐阜県が展開しているオリベイズムの情報発信の一環として2003年秋のニューヨークで一大イベントを行うことを熱く語られました。その席上、私どものメンバーの1人が「グラウンド・ゼロでの鎮魂の謡い」の企画を持ち出し、酒の勢いか、たちまちこの企画が決定したというわけです。

さて、10月18日、1年数ヶ月前の勢いはどこへやら、家族や友達も加えて何とか団体扱いの11人を集めたグループで一週間のボストン、ニューヨークの旅に出発をしました。今回の旅行でいろんな体験をいたしました。先ず驚かされたのはセキュリティーチェックの徹底ぶりでした。空港ではジャケット、時計、ベルトの他、靴まで脱がされますし、スーツケースの施錠も禁止でした。

「エンパイアステートビル」も「自由の女神」も「美術館」も、公共の施設に入場する時は殆どのエントランスでチェックがありました。9.11のテロ以来2年が経過していますが、アフガン、イラク、との戦いを経てまだまだこの国は戦争の真っ只中にいるのかもしれないと、思いました。

「オリベ・イン・NY」の県出展ブースは10月22日午前中にメトロポリタン美術館を訪れ見てきました。思った以上に上質で演出効果も上々の空間で、当初我々がこの場所で謡う計画がご破算になったのがよく分かりました。(つまり、我々が、ここで謡うには荷が重過ぎるということです。)

さて、そろそろ「グラウンド・ゼロ」のことを話したいと思います。そこへはN・Yへ着いた翌日、21日の市内観光のほぼ最後に訪れました。

マンハッタンの高層ビル群の中にポツカリと空いた広大なスペース。知らない人が見ればそれは金網に囲まれた巨大な工事現場としか見えません。N・Yが初めての私にとつ

ても9・11以前の風景を知りませんので、そこに掲げられている写真パネルでしか知ることはできませんが、世界貿易センタービルの巨大さと眼前の風景の異常さにもものすごいショックを受けて言葉にならず、思わず涙が溢れました。正にここを訪れた人しかこの感情は分からないであろうと思いました。

翌日、私たちメンバーに加えてジャパンソサエティでの茶道のデモンストレーションに来ていらした方たちと共にグラウンド・ゼロまで参りました。金網の外からでしたが全員で黙祷した後、120メートル程隔てて跡地を一望できるビルの一角で謡曲「菊慈童」を心をこめて謡ってきました。この為にだけ紋付袴を持っていったわけで荷物になって大変でしたがそれ以上に貴重な体験になりました。

そして、この時私の胸にふと“聖地”という言葉が浮かんできました。世界中に“聖地”と呼ばれる場所はいくつかあって、エルサレムとかヴァチカンであるとか、大抵は聖人といわれる人の生誕地であったりお墓だったりする訳です。しかし、私は人として絶対に失くしてはいけない何か・・・そんなものを訪れる人に与えてくれる場所もそうなのではないか、と思います。(例えば広島原爆ドームなどは日本にとっての聖地だと私は思います。) そんな意味からも私はこの「グラウンド・ゼロ」がアメリカにとって聖地として位置付けられるのではないか、アメリカにとっては勿論のこと、3000人近くの犠牲者や関係者にとって本当に不幸なことではあったけれど、10年か15年後になって何か新しい価値観がこの国に現れるかもしれないな、と思いました。

一週間のボストン、ニューヨークの旅は短すぎてまだまだ見たい所、行きたい所だらけでした。『グラウンド・ゼロ』では涙を流した私とその晩のブロードウェイのミュージカルで大感激。我ながら少し転換が早いとは思いましたが、これもアメリカ、その活力に溢れたショービジネスの世界にも堪能させられました。

旅行から帰ってほぼ3週間が経過しました。帰ってきた当初は一週間ほど続いた時差ボケもやっととれました。そして今でも「自由の女神」へ向かう船に乗って、振り返ったときのマンハッタンのスカイラインや、エンパイアステートビルの屋外展望台から眺めた夜景など、忘れられないシーンがいっぱいです。まだまだお話ししたいこともたくさんありますが、時間の関係もあります。またいつかの機会にお話させていただきます。ご清聴ありがとうございました。